

岩手県の 土地改良

2018(10月) No.578

発行所／岩手県土地改良事業団体連合会 盛岡市本宮二丁目10番1号
TEL(盛岡)019(631)3200 FAX(盛岡)019(631)3260

編集発行人／田山 清 印刷所／永代印刷株式会社

<http://www.iwatochi.com>



CONTENTS

- 本県農業農村整備の一層の推進に向けて
決意を新たに 2
- 岩手県議会農業農村整備推進議員クラブ
現地研修会開催 4
- 農業農村整備予算の確保を要請 5
- 全国から「農を守り、地方を創る」予算の確保に向け集結 5
- 金成・気仙川土地改良区合併予備契約調印式 6
- 県営経営体育成基盤整備事業南下幅北部地区が完工 6
- 土地改良区の新たな取組に向けて 7
- いわてスマート農業祭NEOに水土里情報システムを
出展 8
- 児童向けパンフレットを作成しました 8
- 非補助農業基盤整備資金のご案内 8

「北股川」 阿部 那々子

H29年度小中学生による「美しく豊かな村づくり」絵画コンクール 小学校中学年の部 金賞



本県農業農村整備の一層の推進に向けて決意を新たに — 農業農村整備推進大会を開催 —



6月6日、本会設立60周年を迎えるに当たり、関係各位のご支援に感謝の意を表するとともに、基盤整備の重要性について認識を新たに、本県の農業農村整備の一層の推進に向けて、農業農村整備推進大会を開催した。

大会は、達増拓也岩手県知事や佐々木順一県議会議長をはじめ、国会議員、県議会議員、国、県、東北・北海道の各土地連会長など76名の来賓の出席をいただき、農業農村整備関係者約830名が盛岡市民文化ホール（マリオス）に集結した。

及川正和本会会長は式辞で「本県農業が競争力をもって発展するためには、更に生産性の高いほ場を整備していかなければならない。本会においても、農業の競争力強化に向けた政策目標や国の謳う農政新時代への対応、そして、多発傾向にある自然災害への対応に向け、組織目標に定めた“農業・農村のセーフティネットを目指す”を掲げながら、国や県、関係機関と連携し、役職員一丸となって努力していく」と決

意を述べた。

また、来賓の達増知事から「県では、農地の大区画化や農業水利施設の長寿命化対策、中山間地域でのきめ細やかな整備などを進めるとともに、これらの基盤整備を契機とした6次産業化の促進やICT等の先端技術を活用した生産者の負担軽減などに取り組んでいく。貴連合会においては実効性の高いほ場整備計画の策定や会員への技術指導の充実、近年頻発している豪雨災害により被災した農地の復旧支援など、本県農業・農村の振興に向け、引き続きお力添えをいただきますようお願い申し上げます」と祝辞をいただいた。

その後、(株)農林中金総合研究所理事長の皆川芳嗣氏から「日本の農業・農村と土地改良のこれまでの歩みと未来」と題して、また都道府県土地改良事業団体連合会会長会議顧問の宮崎まさお氏から「農業農村整備の今後の展開方向」と題して基調講演をいただいた。



【式辞を述べる及川正和本会会長】



【祝辞を述べる達増拓也知事】



【基調講演する皆川芳嗣氏】



【基調講演する宮崎まさお氏】

このほか、大会では、岩手県知事表彰、岩手県土地改良事業団体連合会会長特別表彰・功労者表彰の授与式が行われた。

岩手県知事表彰は、本県の農業農村整備の推進に大きく貢献した3名の方々が受賞された。

また、岩手県土地改良事業団体連合会会長特別表彰は、本会会長として農業農村整備事業の推進並びに組織運営に尽力し、その功績が特に

顕著であることから、元会長の館澤宏邦氏が受賞された。

このほか、岩手県土地改良事業団体連合会功労者表彰は、永年にわたり土地改良区の役員として農業農村整備事業の推進並びに組織運営に尽力し、その功績が特に顕著である方々を表彰するもので、19名が受賞された。

◆岩手県知事表彰

及川正和 (岩手県土地改良事業団体連合会 会長)
 及川力 (岩手県農業土木技術協議会 前副会長)
 土門隆三 ((一社)岩手県土地改良設計協会 元会長)



【左から、及川力氏、達増拓也知事、及川正和氏、土門隆三氏】

◆岩手県土地改良事業団体連合会 会長特別表彰

館澤宏邦 (岩手県土地改良事業団体連合会 元会長)



【左から、及川正和本会会長、館澤宏邦氏】

◆岩手県土地改良事業団体連合会 功労者表彰

下河原正夫 (鹿妻穴堰土地改良区 総括監事)	及川治雄 (花 泉土地改良区 理事)
工藤定幸 (岩手山麓土地改良区 副理事長)	小岩敬一 (花 泉土地改良区 理事)
駿河和弘 (岩手山麓土地改良区 前総括監事)	後藤凌作 (一関東部土地改良区 副理事長)
高橋昭貴 (西和賀土地改良区 理事長)	實吉義正 (気仙川土地改良区 理事)
石川隆男 (西和賀土地改良区 筆頭理事)	石川誠 (金 成土地改良区 総括監事)
佐々木利夫 (真打堰土地改良区 理事)	加藤正明 (小本川土地改良区 理事長)
小岩恭一 (市野々土地改良区 第一理事)	竹花善吉 (小本川土地改良区 理事)
佐藤正弘 (市野々土地改良区 理事)	小成茂 (小本川土地改良区 総括監事)
沼倉初雄 (市野々土地改良区 総括監事)	千葉藤男 (小本川土地改良区 監事)
	下館岩吉 (大 野土地改良区 理事長)



【及川正和本会会長と受賞者】

岩手県議会農業農村整備推進議員クラブ現地研修会開催 — 矢巾町徳田第二地区の営農状況等を視察 —

岩手県議会農業農村整備推進議員クラブ（高橋元 会長、会員数47名全議員加入）は、8月27日に現地研修会を開催した。研修会には会員16名が参加し、矢巾町のほ場整備事業実施地区における高収益作物の導入状況や、都市住民の生活安全に寄与している農業用排水路を視察し、地元農業法人代表者と農業収益向上に向けた取組について意見交換を行った。

研修に先立ち、高橋会長が「本日は矢巾町の地元農家さんと活発な意見を交換して有意義な研修にしていきたい」と挨拶した。

続いて、事務局を務めている本会の及川正和会長が「今年度よりコメの生産調整が廃止となり、県内の農家の方々はコメの生産コストの縮減に取り組んでいる中、基盤整備事業の推進を求める農家の方々の声が一段と多くなってきている。今後とも農業農村整備の推進に一層のご支援とご指導を賜りますようお願い申し上げます」と挨拶しました。

最初の現地研修場所である県営経営体育成基盤整備事業徳田第二地区では、宮野孝志盛岡広域振興局長から「本日は、農業農村整備の必要性や効果についてご説明いたしますので、皆様方から農業農村整備の推進についてより一層ご支援いただきますようお願い申し上げます」と挨拶があり、その後、整備された水田におけるズッキーニを取り入れた高収益作物の営農状況を視察した。



【ズッキーニについて説明を受ける議員クラブ会員（徳田第二地区）】

次の現地研修地である徳田南地区では、農村災害対策整備事業で整備した農業用排水路の役割等を視察し、伊藤栄悦盛岡広域振興局農政部農村整備室長から、周辺の都市化の進行により排水量が増えたことや、過去の豪雨時における排水路の効果等について説明を受けた。

その後の意見交換会では、ほ場整備実施地区



【農業用排水路の概要について説明を受ける議員クラブ会員（徳田南地区）】

における高収益作物栽培等の推進について、菅原弘範矢巾町産業振興課長が「ズッキーニは県内の消費者にあまり馴染みがなく、栽培を推進するに当たり、『地元学び塾』で新しい食べ方の調理体験や町内飲食店と共同で普及啓発に取り組んでいる」と紹介した。

続いて、宮竹志農事組合法人東農産代表から「平成27年の組合設立時は3haだったズッキーニの作付面積は、現在7haまで増えた。今後は、新商品の開発や若手農業者の育成などに取り組んでいきたい」と力強く説明した。



【意見交換会で発言する宮農事組合法人東農産代表】

会員の方々は、高収益作物の導入が可能となるほ場整備事業の効果や、農業用排水路が都市住民の安全に寄与している状況を確認し、農業農村整備の必要性について認識して研修会を終えた。



【意見交換会の様子】

農業農村整備予算の確保を要請

— 東北・北海道土地連絡協議会が農水省、財務省、復興庁へ要請 —

東北・北海道土地改良事業団体連合会連絡協議会（会長：車田次夫福島県土連会長）は、6月14日に農林水産省、財務省及び復興庁に対し、「農業農村整備関係予算の確保並びに東日本大震災からの再生・復興に関する要請」として要請活動を行った。

今回は、「農業農村整備関連当初予算の確保」や「地方財政措置の拡充等の支援」「土地改良法改正に伴う土地改良区の組織運営の適正化に向けた支援」「多面的機能支払制度の推進と予算の確保」について要請するとともに、東日本大震災に関して「農地・農業用施設の復旧・整備に必要な財政支援措置と十分な予算確保」についても要請した。

農林水産省では、齋藤健農林水産大臣から「基盤整備は、行政が責任をもってやらなければならない。補正も含めて総枠の予算を確実に確保していきたい」とのコメントをいただいた。

復興庁では、吉野正芳復興大臣から「復興事業の進捗率は89%までできている。復興予算は、全体で32兆円を確保しており、心配をかけることなく進めていきたい」とのコメントをいただいた。

財務省では、前田努主計官から「農業農村整備事業の実施には安定した予算確保が重要という事は理解しており、効率的・効果的な予算としていきたい」との話があった。



【齋藤大臣（右から5人目）に要請書を手渡す車田会長（左から4人目）右が及川正和本会会長】

全国から「農を守り、地方を創る」予算の確保に向け集結

— 『農業農村整備の集い』が開催 —

6月13日、全国土地改良事業団体連合会（二階俊博会長）は、平成31年度農業農村整備事業予算の確保と各種施策の着実な実施に向けて「農業農村整備の集い」を開催した。

会場には全国から約1,200名が参集し、来賓に齋藤健農林水産大臣をはじめ151名の国会議員が出席した。

開会に当たり二階会長は、「平成30年度は当初予算、補正予算合わせて大幅削減前を上回る5,800億円を確保することができた。引き続き『闘う土地改良』を掲げ、皆様と協力していきたい」と挨拶した。

続いて、齋藤農林水産大臣が「今後も所要の予算確保に全力で取り組んでいく」と祝辞を述べたほか、進藤金日子都道府県土地改良事業団体連合会会長会議顧問（参議院議員）からは「当初予算の確保に向けて頑張っていきたい」と祝辞があった。

おわりに、「平成31年度当初予算の十分な確

保」ほか3項目の要請案文が全会一致で採択され、参加者一同でガンバロウを三唱し閉会した。



【挨拶する二階全土連会長】



【祝辞を述べる齋藤農林水産大臣】

金成・気仙川土地改良区合併予備契約調印式

— 大震災を乗り越えて更なる経営基盤の強化を図り、地域農業の発展に貢献を —

金成土地改良区(畠山克輝理事長)と気仙川土地改良区(熊谷研理事長)は、運営基盤強化に向けた土地改良区の合併を目指し、8月29日に陸前高田市コミュニティーホールにおいて合併予備契約を締結した。

調印式には2土地改良区の役職員及び岩手県農林水産部、沿岸広域振興局大船渡農林振興センター、陸前高田市などの関係者約40名が出席し、畠山、熊谷両理事長、立会人の戸羽太陸前高田市長、石川義晃沿岸広域振興局長、及川正和本案会会長の5名が合併予備契約書に署名した。

式辞の後には3名の立会人から来賓祝辞が



【契約書に署名する畠山(左)、熊谷(右)両理事長】



【固い握手を交わす(左から)及川会長、畠山理事長、熊谷理事長、戸羽市長、石川局長】

あり、石川局長は「金成・気仙川両土地改良区におかれては、統合整備研究会、同幹事会、協議会設立と慎重に協議・検討されて本日の調印式に至ったことに深く敬意を表する。今回の合併を機に組織運営や財政基盤の強化を図り、地域農業の持続的発展に益々大きな役割を果たされることを期待する」と述べ、式の最後には両理事長と立会人が合併に向け固い握手を交わした。今後は、両土地改良区の総(代)会での合併議決を経て、年内合併認可の予定となっている。合併後の名称は「陸前高田土地改良区」で、受益面積334.7ha、組合員数825人となり、更なる基盤強化が期待される。

県営経営体育成基盤整備事業南下幅北部地区が完工

— 効率の高い安定した農業経営を目指して —

6月15日、平成20年度の事業着手から10年を経て完工を迎えた「県営経営体育成基盤整備事業南下幅北部地区」の記念式典が、同地区事業施行委員会の主催により奥州市の水沢グランドホテルで開催された。

式典に先立ち、事業完工記念碑除幕式が同市胆沢南都田の同地区現地で行われ、達増拓也岩手県知事が「清冽沃地」と揮毫した記念碑が関係者の手によって除幕された。

完工式典では、施行委員会の阿部正三委員長から「経営意識が高まり、営農組織の法人化につながったのは、まさに生産基盤の整備による大きな効果であると自負しております。長年にわたり本事業を進められた関係各位に心から敬意を表したい」と式辞を述べた。続いて、細川倫史県南広域振興局長の代理として前田一人副局長、小沢昌記奥州市長の代理として及川健農



【記念碑除幕式の様子】

地林務課長、及川正和胆沢平野土地改良区理事長から祝辞が述べられた。

本地区では、標準区画を1haとするほ場整備105.1haをはじめ、用排水路のコンクリート装工、農道や暗渠排水の整備を行い、担い手への農地集積率を95%まで引き上げた。今後は、より一層効率の高い安定した農業経営の確立が期待される。

土地改良区の新たな取組に向けて

— 平成30年度水土里ネット職員研修会を開催 —

本会は、8月21日から22日、花巻温泉ホテル千秋閣において、平成30年度水土里ネット職員研修会を開催し、会員土地改良区職員等48名が受講した。

開会に当たり、菅野章本会総務管理部長が「昨年と今年の2回にわたり土地改良法が改正され、土地改良区を巡る環境は大きく変わろうとしている。加えて、複式簿記への移行や農地中間管理機構への対応など、今までの経験値だけでは処理できない事案も増えている。この研修会が皆様の新しい取組の一助となることをご期待申し上げるとともに、土地改良区職員間の横のネットワークを築く機会としていただきたい」と挨拶した。

初日は、佐藤恭子県農林水産部農村計画課主任主査が、土地改良法の改正に伴う土地改良区への対応や留意点を具体的に解説した。



【佐藤県農林水産部農村計画課主任主査】

続いて、豊沢川土地改良区藤原康陽総務課長補佐兼会計係長、熊谷千加子会計係主事が、土地改良区の会計を複式簿記へ移行した経緯や実務を通じて改善した点等について、事例をもと



【豊沢川土地改良区藤原総務課長補佐兼会計係長（左）、熊谷会計係主事（右）】

に発表した。

また、大高智佳子NEXT-STAGE代表が、組織内におけるコミュニケーションの改善と促進について、参加者と対話しながらの実践形式による講習を行った。



【マイクを向ける大高NEXT-STAGE代表】

2日目は、菅野総務管理部長が、県営農業農村整備事業の特徴と流れについて、新任者向けに作成した図や写真をもとに解説した。

最後の講義では、藤江修農事組合法人門崎ファーム代表理事組合長が、平成29年度農業農村整備優良地区コンクール（全国土地改良事業団体連合会主催）において最高位となる農林水産大臣賞を受賞した門崎ファームの取組を発表し、「食と共に環境を守る」を経営理念に掲げ、メダカの保全活動や『門崎めだか米』のブランド化に向けた活動などを説明した。



【藤江門崎ファーム代表理事組合長】

参加者は、「今後に活かせる研修だった」「改良区で実践してみたい」などと感想を述べ、2日間にわたる研修で土地改良区の新たな取組に見識を深めていた。

いわてスマート農業祭NEOに水土里情報システムを出展 — 農地を「見える化」して農地の利用拡大をサポート！ —

本会は、8月24日から25日に開催された「いわてスマート農業祭NEO」に水土里情報システムを出展した。

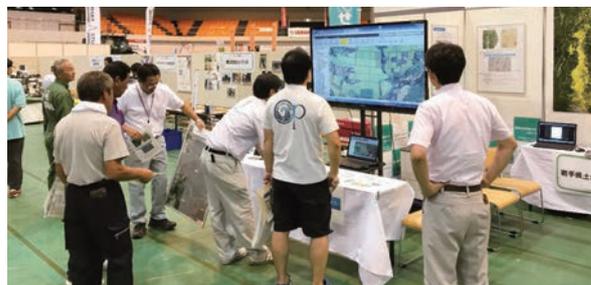
いわてスマート農業祭NEOは、岩手県が主催し岩手産業文化センターアピオで開催されたもので、93の会社や機関が自動走行トラクターやドローンの活用など最新のICT技術を展示・実演した。

本会からは、農地が分散している農業法人を例に、農地の場所を水土里情報システムの地図で見える化して農地を効率的に管理する活用について紹介した。

ブースを訪れた方々は、水土里情報システムの地図情報が県内全域の農地をカバーしていることや印刷した航空写真を見て、自分の農地周辺が鮮明な画質で確認できることに驚いていた。

また、実際に農地が分散している農業法人関係者からは、「GAP認証（農業生産工程管理）の取得を目指す法人や行政が進める農地利用集

積で農地が増え続ける法人には地図情報が必須」との声をいただき、改めて農業法人における水土里情報システムのニーズを認識した。



【本会のブースで説明を受ける来場者】

本会では、農業法人向けのシステムを導入しやすい価格で提供しており、操作方法や活用方法についてのご相談にも随時対応しています。

詳しい内容については、本会水土里情報推進室までお気軽にお問い合わせください。

児童向けパンフレットを作成しました — 田んぼの水はどこからくるの？ —

本会は、農業用水や農業水利施設、水田の多面的機能を広く県民に理解していただくことを目的として、児童向けパンフレット（A4、8ページ）を作成しました。

このパンフレットは、県内での農業農村整備に関わるイベント等で配布することを想定し、6月6日に開催した農業農村整備推進大会に合わせて作成したもので、県の農業農村整備広聴・広報プロジェクトチームの協力を得て、小学生にも理解しやすい内容としています。

各地域でのイベントでパンフレットを配布していただきますようお願いいたします。
詳しくは、本会管理指導課までお問い合わせください。



【パンフレットの表紙及び内容（一部抜粋）】

非補助農業基盤整備資金のご案内 — 長期・低利の融資を活用しませんか —

日本政策金融公庫の非補助農業基盤整備資金は、国の補助を受けない非補助土地改良事業の地元負担金や農業集落排水事業で設置した公共枡から各家庭までの配管敷設等の工事に利用できます。

詳しい内容については、日本政策金融公庫盛岡支店農林水産事業、岩手県農林水産部農村計画課または本会管理指導課までお問い合わせください。